

① 歩行者交通処理について

② 車両交通処理について

歩行者交通処理の考え方（課題と対応の方向性）

- 開発で増加する歩行者、特に、計画している大規模集客施設・交流施設におけるイベントによる入退場時の歩行者について、過度な集中を回避していく必要があります。
- 現状のエリア全体の交通環境は、十分な歩道が整備され、複数の鉄道路線やバス路線を有しておりますが、通勤通学のピークやインバウンド需要などによる局所的な歩行者の集中や滞留があることから、これらを踏まえた対策を行います。

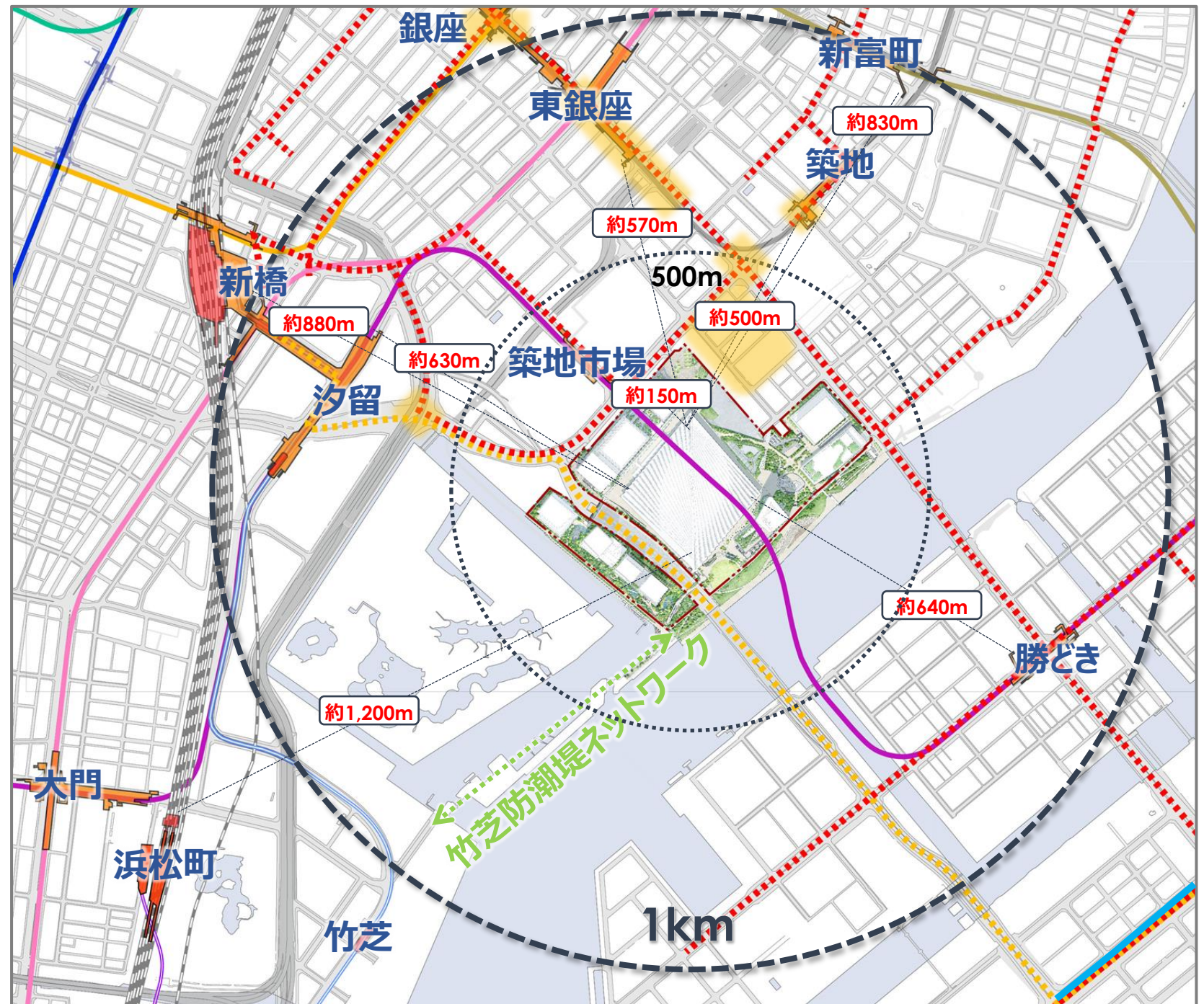
＜現在のエリアの状況＞

- ・計画地の周辺徒歩圏内（1km圏内）では、現状12路線 8 駅が利用可能です。
- ・また、将来的に都心部臨海地域地下鉄新線・新駅の整備が予定されており、さらなる利便性の向上が図られます。
- ・計画地の周辺では、5 系統のバスが利用可能です。
- ・2026年秋頃にBRTの新規路線（東京駅ルート（仮称））の運行が予定されています。

■ 地下鉄駅 ■ 地上駅

— 鉄道路線 — □— スタジアムゲート～各駅出入口間の距離

●●● 都バス路線 ●●● BRT路線



通勤通学のピークやインバウンド需要などによる局所的な歩行者の集中や滞留が見られる箇所

歩行者交通処理の考え方（対応の方向性）

＜対策の方向性＞

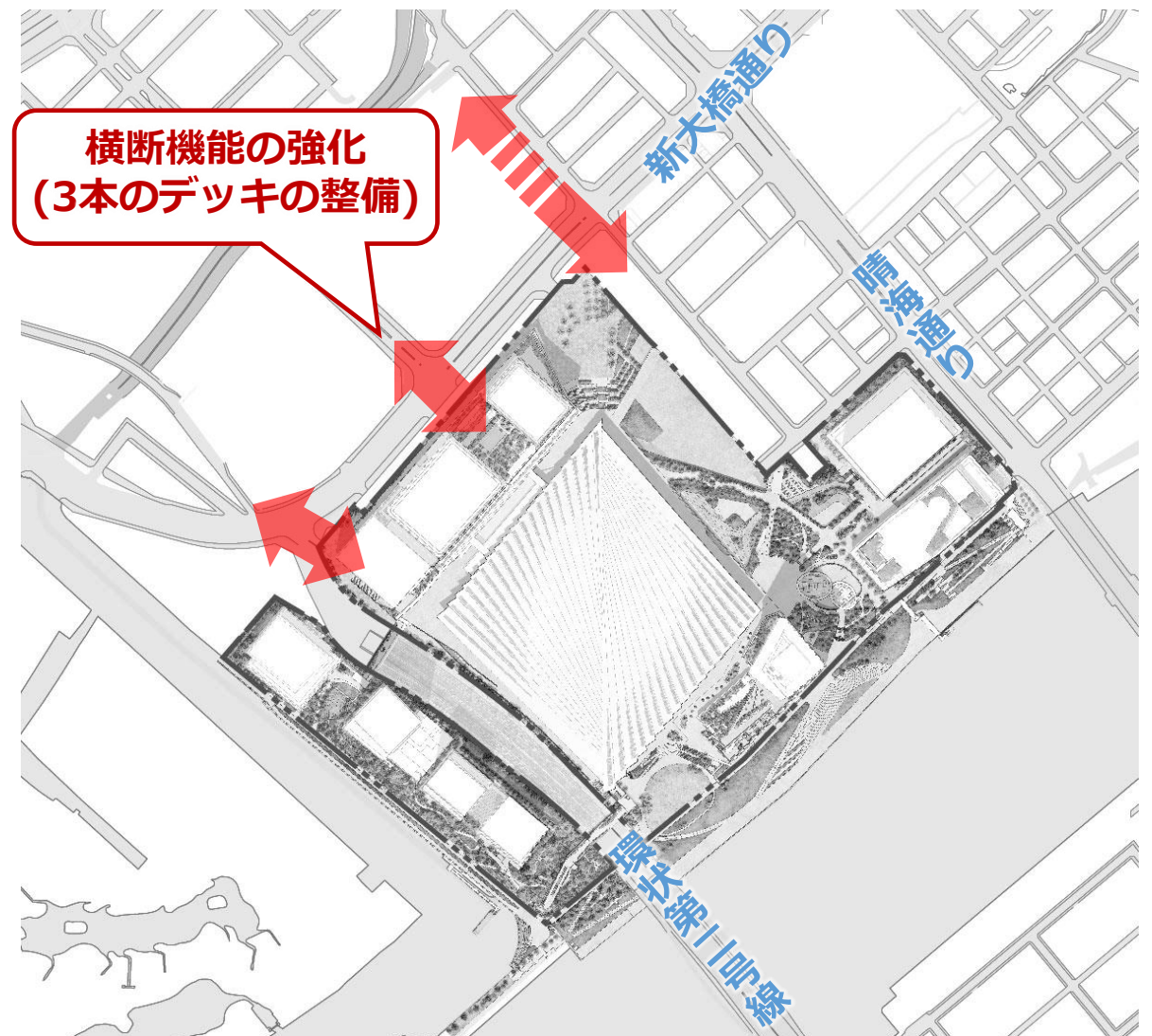
①経路や時間帯の分散化

- 経路や時間帯の分散化により過度な集中を回避していきます。

- 経路の分散（誘導含む）
- 時間帯の分散（滞留空間の整備＋誘導）
- 代替手段の導入（シャトルバス等）
- その他多様な経路や円滑化システム導入

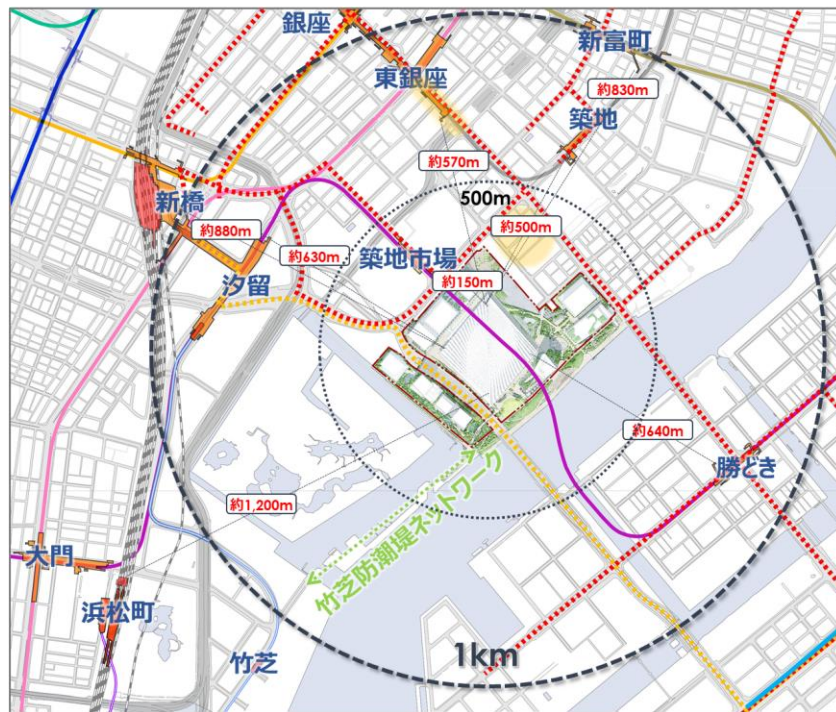
②横断機能の強化

- 横断機能を強化することにより、歩行者の安全性や円滑な歩行者の流動を確保していきます。



①経路や時間帯の分散化

経路の分散（誘導含む）



時間帯の分散（滞留空間の整備＋誘導）

大規模オープンスペースを確保

利用者を滞留させる

オープンスペースでの
屋外イベント

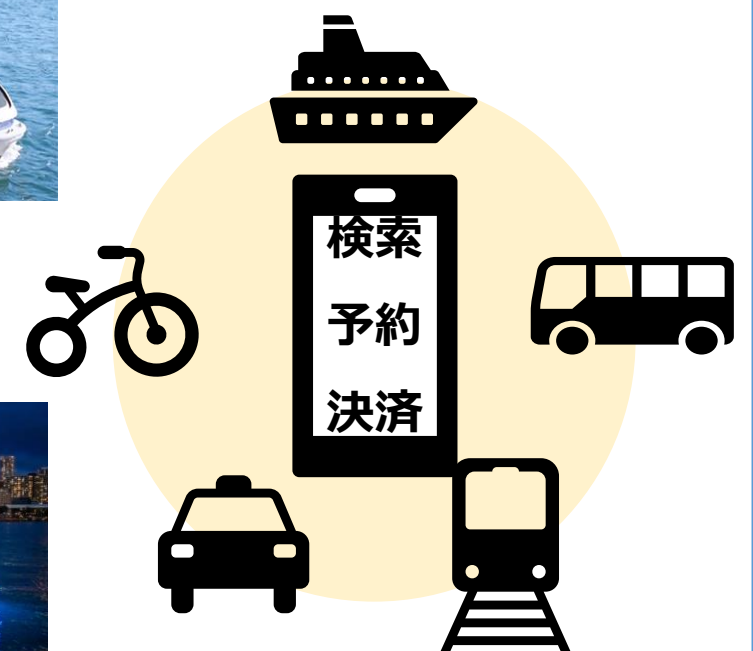
大規模集客
・交流施設



代替手段の導入 (シャトルバス等)

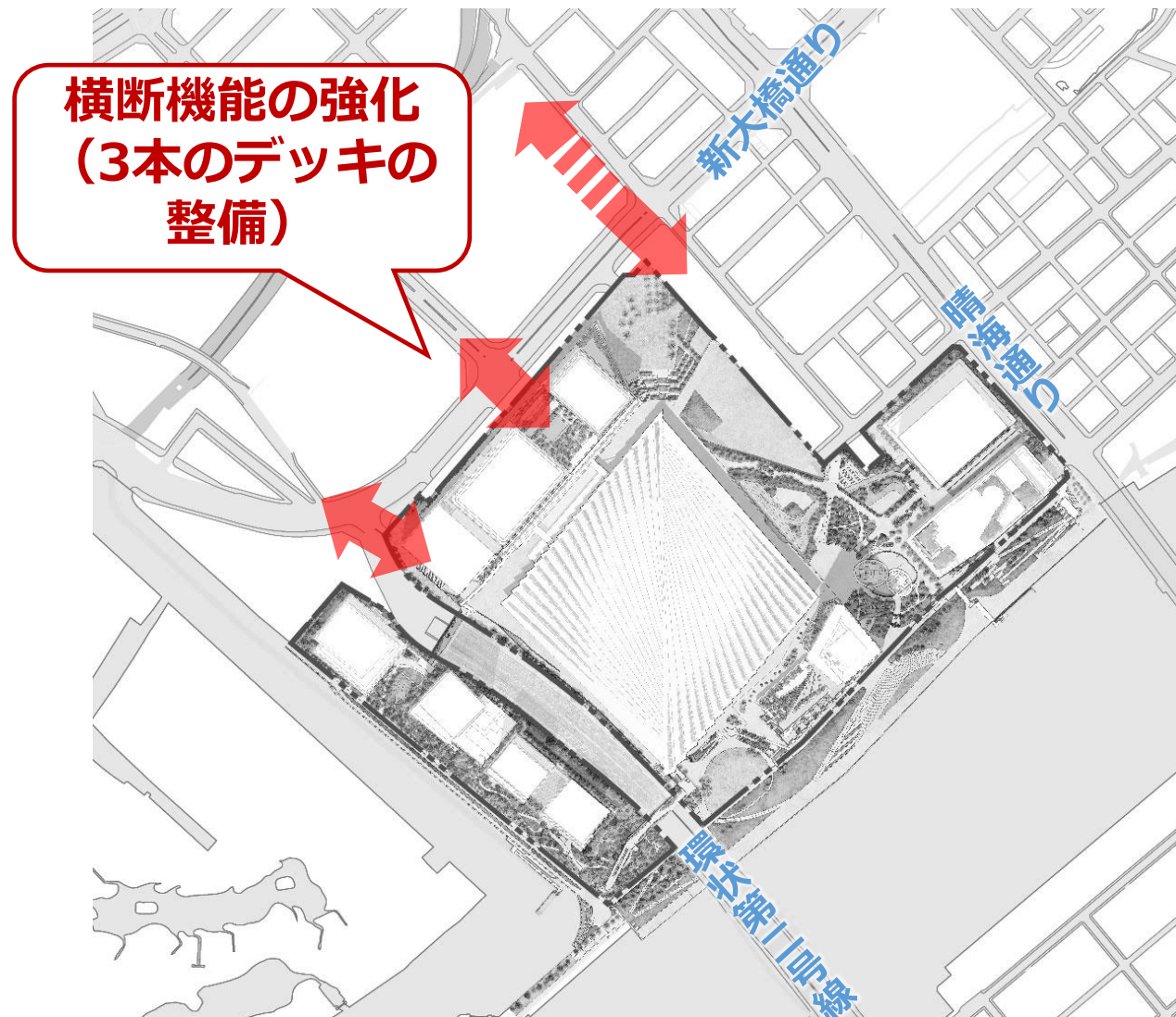


その他多様な経路や円滑化システム導入



②横断機能の強化

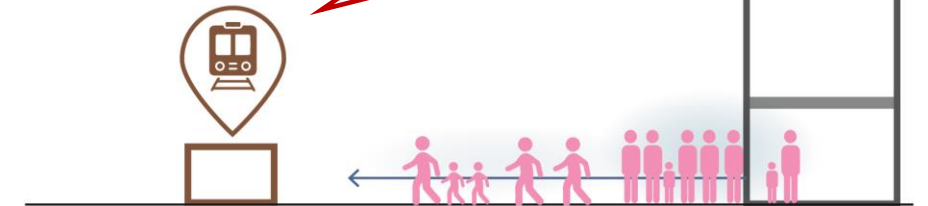
- 将来的に新大橋通りを横断するデッキの整備を検討することにより、周辺複数駅への経路分散に加え、歩車分離による歩行者の安全性や円滑な流動を確保していきます。



歩行者デッキの整備

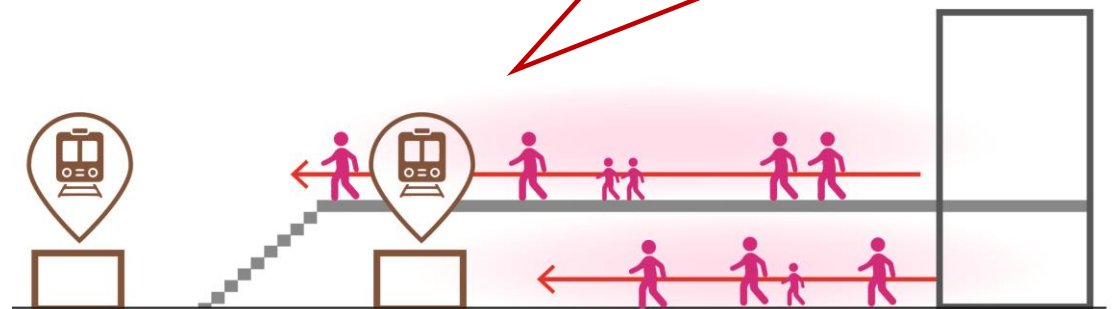
<デッキなし>

交差点や歩道など特定の場所での混雑が懸念される



<デッキ整備>

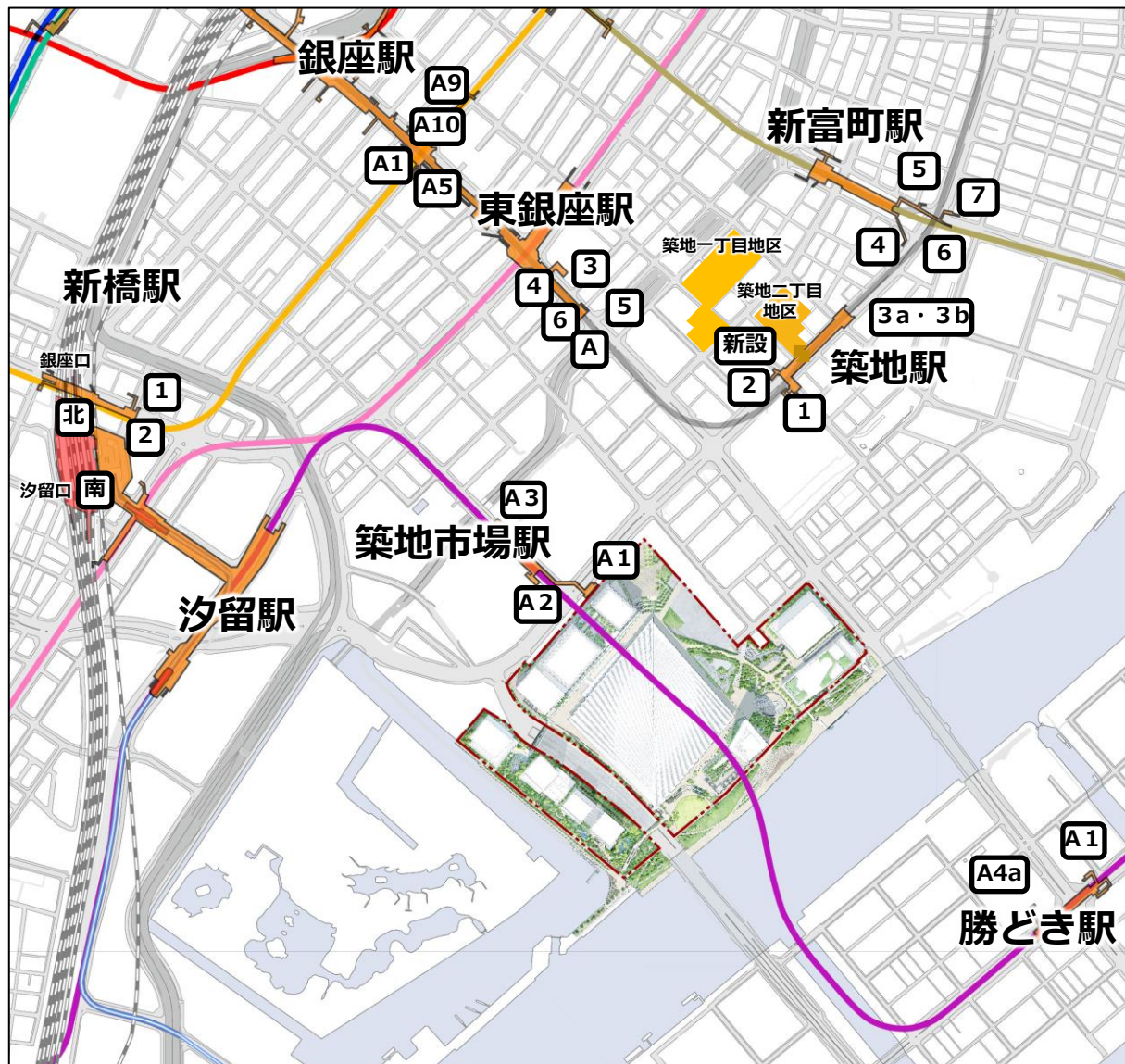
より多くの歩行者が各方面へ安全に通行可能



その他 鉄道駅やバス停における混雑回避への対応

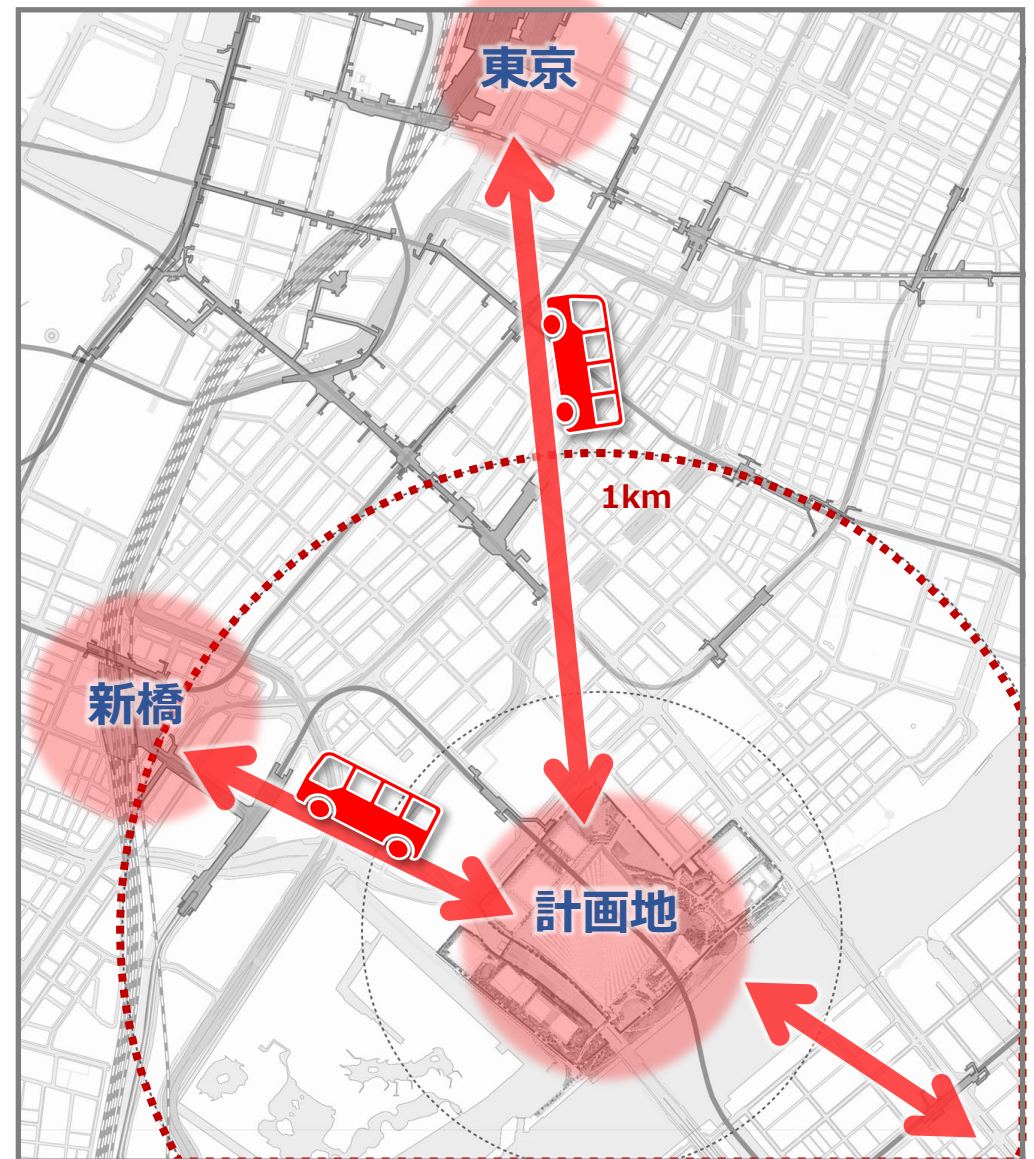
周辺鉄道駅への影響対策について

- 地下鉄新線の整備が予定されているものの、整備までに一定の期間があることから、交通誘導員を配置することによって駅利用者を各出入口に分散していくなど、混雑の解消に対応します。



既存バス路線への影響対策について

- シャトルバスの導入等により既存バスへの影響を低減します。
- また、まちびらき 1 期開業時に向けて、既存路線バスの運行に支障のないよう、利用状況等を加味し、イベント時にはバス停における交通誘導の必要性など関係機関等と協議していきます。



交通対策

① 歩行者交通処理について

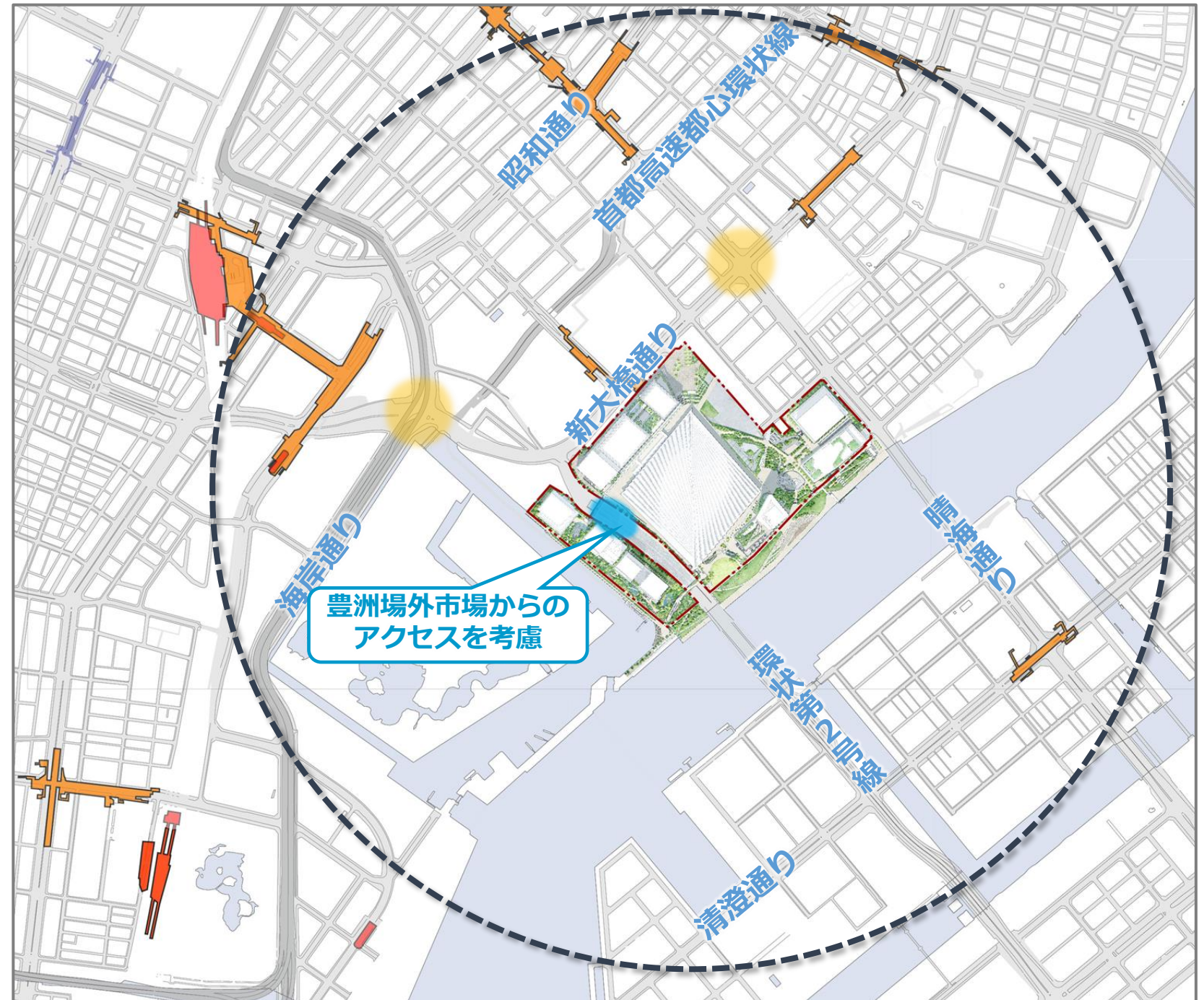
② 車両交通処理について

車両交通処理の考え方（課題と対応の方向性）

- ・ 開発で増加する車両交通について、円滑に処理していく必要があります。
- ・ 新大橋通りや晴海通り、環状第2号線といった幹線道路が集中する場所であることや、豊洲市場と築地場外市場との行き来や高速晴海線の整備を見据えた円滑な交通処理が求められていることなど、地域の実情を踏まえた対策を行います。

<現在のエリアの状況>

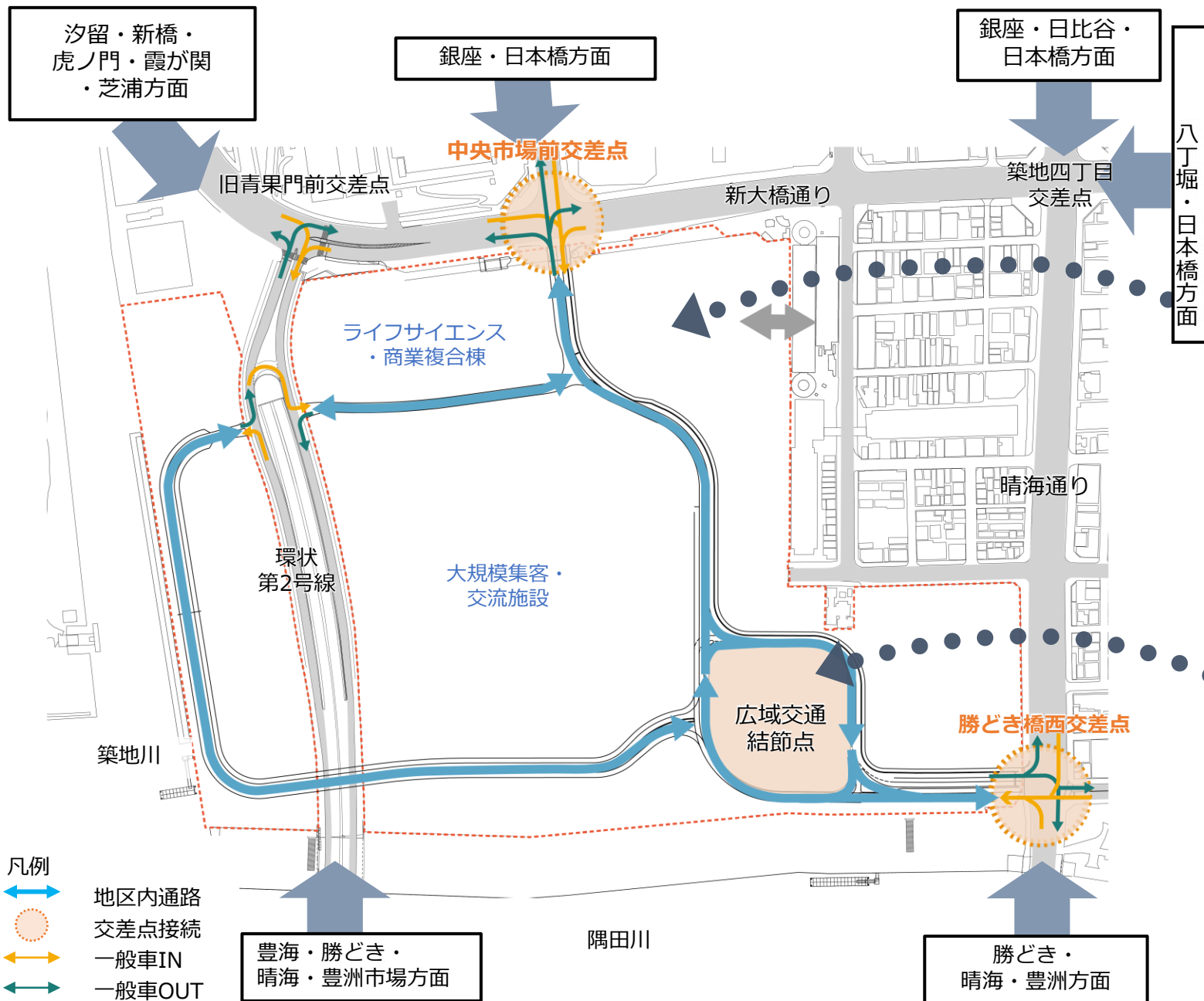
- ・ 計画地は敷地東側の晴海通りのほか、敷地北側に新大橋通り、計画地を縦断する環状第2号線など、主要な幹線道路と接続しています。
- ・ 晴海通りからは日比谷方面および豊洲・有明方面に、新大橋通りからは日本橋・月島方面および汐留方面に、環状第2号線からは豊洲市場方面にアクセスできるなど、計画地周辺への円滑な交通輸送が可能となる計画です。
- ・ また、将来的に高速晴海線の延伸が予定されています。



局所的な交差点の自動車交通の集中が見られる箇所

車両交通処理の考え方（対応の方向性）

- 敷地内における周回車路の整備とともに、各方面からの円滑なアクセス動線や、交差点における適切な信号現示や車線長の確保等を行うことにより、開発により発生する自動車交通による晴海通りなどの周辺道路や交差点への新たな負荷をなるべく低減し、イベント開催時を含め円滑に交通を処理できる計画とします。
- また、敷地内に観光バスや公共用の駐車場等を整備することにより、周辺エリアで散見されてる路上駐車を受入れ、円滑な交通を阻害する事象の解消に寄与する計画とします。



＜円滑な交通の阻害要因となる課題＞



1階レベルの地区内通路計画と周辺道路との接続

※上記の位置、形状などはイメージを示すものです。今後、関係機関協議等により、変更となる可能性があります。